

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103946
法人名	有限会社 ベターライフ・U
事業所名	グループホーム四葉のクローバー
所在地	松山市石風呂町甲1014番1
自己評価作成日	平成22年6月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「健康・愛情・幸福・希望」を理念に掲げており、特に健康には力を注いでいる。職員は、理念に基づいた支援が出来るか、確認出来るように理念カードを携帯して仕事に臨んでいる。1日1回は外へ散歩に行ったり、ボールを使った失禁予防体操や美味しく、安全に食事が出来るように口腔体操も取り入れている。  
地域に根付いたホームを目指しており、包括支援センターの助力や、運営推進会議の開催などで、ホームの認知度が高まっていると感じる。  
野菜の収穫を楽しんだり、季節に応じた行事や食事メニューを職員も一緒に楽しんでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議は「ホームでの利用者の生活を知っていただくよい機会」と捉え、ご家族も毎回違った方にご参加いただけるよう声をかけておられる。会議時、地域の方のお誘いもあり、地域行事に参加されたことがきっかけで、地域の清掃活動に利用者とともに参加するようになった。  
ほとんど毎日、午前中は近隣の公園まで等、散歩されている。車いすを利用されている方も「外気に触れる機会を作る」ことに努めておられ、一緒に散歩に出かけておられる。毎月、外出計画を立て、お花見、イチゴ狩り等、季節を感じる事ができるような外出を楽しまれている。皆で椿祭りに出かけた際には「懐かしい」と喜ばれる利用者もあったようだ。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. <b>数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム四葉のクローバー

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 濱崎 真由美

評価完了日 平成22年 6月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念は、「健康・愛情・幸福・希望」である。職員は、内容を理解して実践に繋げている。いつでも確認できるように、携帯用の理念カードを身につけて仕事に臨んでいる。	
			(外部評価) 利用者、ご家族、職員の「幸福・愛情・健康・希望」を支援することとともに、地域とともに、取り組んでいくことを目指しておられる。法人全体の理念をカードにして、各自が携帯されており、日々確認できるようになっている。ユニットごとに毎年目標を決めておられ、今年1階は「言葉づかいに気をつけよう」2階は「服薬ミスをなくそう」と掲げて取り組まれていた。職員個々のケアの目標も立てて、各ユニット入口に写真とともに掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に招かれる場面が増えている。地域の防災訓練にも、利用者様と共に参加させていただいた。また、散歩中に挨拶を交わしたり、公園の管理をされている方に、抜いた花を「要るだけ持ってお帰り」と声を掛けていただいたりして、交流が深まっていると感じる。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの協力を得て、センターの行事に利用者とともに参加されている。「すみれ野WAIWAI講座」では、認知症のお年寄りをテーマにした紙芝居の後で、地域の子供たちの前で、管理者が事業所のことや認知症についてお話しされた。近隣団地の自治会長の方からのお誘いで、松山祭りの野球拳おどりの連の仲間として職員が参加されており、踊りの練習等で地域の方と顔見知りになり、日々の散歩の途中に声をかけていただくことも増えたようである。「行方不明捜索訓練」の際には、近所のコンビニや会社にも協力をお願いに回られた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の包括支援センター等を通して、行方不明時の捜索には、近隣の様々な事業所に協力を頂けるよう取り組んでいる。また、認知症についての勉強会を地域の集会所で開く・・・という取り組みは、まだ実現していない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、毎回利用者様、家族様も参加されており、生の意見が参加されている地域の方にも届いている。外部評価については、実施後に、改善点や目標について報告し、会議参加者の方の意見やアドバイスを受け、向上に努めている。	
			(外部評価) 会議は「ホームでの利用者の生活を知らせていただくよい機会」と捉え、ご家族も毎回違った方にご参加いただけるよう声をかけておられる。会議時、地域の方のお誘いもあり、地域行事に参加されたことがきっかけで、地域の清掃活動に利用者とともに参加するようになった。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃の連絡は、主に施設長や事務職員が行っている。運営推進会議には、毎回出席して下さり、ホームの取組みを伝えたり、情報を頂いたりしている。	
			(外部評価) 法人代表者は、市の福祉課の担当者と連絡を取り合い、生活保護受給者の生活について相談しながら、支援に取り組まれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関や、ユニットの扉は常時開放しており、自由に出入りできる状況である。そのため、危険でないように、1階と連携して、見守りを行っている。一般的な身体拘束となる禁止行為については理解し、拘束のない支援に取り組んでいる。扉に鈴を取り付けたりして、施錠をしないように努めている。	
			(外部評価) ミーティング時等で、日々のケアについて職員で話し合っておられるが、市の実地指導時に担当者から「身体拘束の知識を深める等、年1回学習会を行い、日々のケアを振り返る機会を作ってはどうか」と提案いただき、実施に向けて計画をされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング時に、外部の研修の報告を聞いたり、話し合ったりして、防止に努めている。命令口調になっている時があると指摘を受ける事があるので、自分で気をつけたり、スタッフ間で指摘し合ったりしているが、今後も取り組みが必要と思う。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティング時に、資料を使って勉強したり、外部の研修に参加したりしている。実際に活用している利用者様は、現在は居られないので、深くは理解していないと思う。必要となった際に、説明出来る様に、今後も勉強したい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には主に施設長が十分な説明を行っている。又、現場スタッフが同席し、内容の洩れや確認を行っており、家族様と信頼関係が築けるようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様には日々の生活の中でお聞きしている。家族様には面会時、ケアプラン更新時や運営推進会議に出席頂き、意見を頂いている。又、運営推進会議の議事録を市に提出し、会議に出席されない場合でも意見、内容を知って頂くように取り組んでいる。頂いた意見は生かせるように努めている。 (外部評価) 事業所で行うクリスマス会やそうめん流し等の夏の行事時には、ご家族も招き、お話しをお聞きするよう努めておられる。ご家族から居室の温度等についてご意見をいただいた際には、職員で室温調節に気を付けるようにされた。3ヶ月に1回、ホーム便りをユニットごとに作成して、ご家族に行事の様子等を写真入りで報告されている。	以前、運営推進会議の際に、ケアについてご家族から気付いたことやご意見をいただいたこともあるようだが、現在は「ホームに任せます」と言われるご家族も多く、ご意見をいただくことは少ないようである。ご家族の声をケアサービスに反映していくためにも、事業所の日々のケアの取り組みの様子等を見ていただきながら、具体的にご意見を聞くような機会を作ってはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	(自己評価)	
			<p>ミーティングや、朝礼時に意見交換をする機会があり、出来る事は、反映させている。なかなか本音を言い難いのも現状だと思う。</p>	
			(外部評価)	
			<p>月1回のミーティング時には、職員が意見を出し合い話し合えるよう会をすすめておられる。職員が日々気付いたことや提案、ケアについての相談等は「意見ノート」に書くようにされており、それぞれの職員が意見を書き込むようにされている。</p>	
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>給与水準や労働時間は、就業規則で決められたとおりである。休日は、前もって希望を出せるシステムで、緊急時は、即対応している。休憩時間は、見守りをしながらが実情であり、リフレッシュ出来ているとは言えない。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	(自己評価)	
			<p>社内での新人研修を行っている。また、職員個人の力量に合わせた外部の研修に参加を勧められたり、希望する研修に参加出来る取り組みとなっている。ミーティング時には、看護職による、テーマ別の対応等を勉強する時間を設けて、スキルアップに努めている。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	(自己評価)	
			<p>包括支援センターや、グループホーム連絡協議会などの勉強会を通じて、他の施設との交流を図る機会がある。今後は、徘徊ネットワークを充実させていく上で、更に交流が広がるように取り組み、サービスの質の向上を図りたい。また、他施設について施設長より情報を受け、見学に行く事を勧められている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	
			<p>ご入居前にアセスメントを行なった職員、施設長からの情報や、アセスメントシートの読み込みで、状況把握に努めている。ご入居後は、特に様子観察を十分にを行い、アセスメントシートの追記欄に情報を記録して、全員で把握できるように取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居前には、実際にホームを見学して頂いたり、十分なアセスメントを行ない、関係作りに努めている。ご入居後は、連絡を密に取るようにして、可能な範囲で要望にもお応え出来る様、努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントの情報を把握し、利用者様の様子観察を行なっている。利用者様、家族様と話して、又、かかりつけ医からの診療情報提供を受けて、必要な支援を行なっている。他のサービス利用は、現在は行っていない。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様の希望や能力に合わせて、出来る事をスタッフや他の利用者様と共に行ない、(洗濯物畳みや、調理の下準備など)お互いに支えあえる関係作りに努めている。利用者様間のトラブル(口論など)になりそうな場合は、少しでも早く察知して、職員が間に入っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 通院介助やヘアカット、ひ孫様を連れての訪問など、定期的、不定期な面会により、良い関係を築いている方もおられる一方、ケアプランの更新時しかなかなか面会のない方もおられる。毎月のメッセージカードの送付を続けて、家族様の協力が大切である事をお伝えし、協力頂ける関係作りに努める。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 家族様や親族の面会が殆どである。たまに、知人、宗教関係の方が面会に来られ、居室で過ごされることもある。外出時に、馴染みの場所近くを通ると、懐かしそうにお話される場面もある。 (外部評価) ご家族と選挙やお墓参り、デパートに買い物に出かけるような方もある。愛用の化粧品や仏壇のお供えもの等は、利用者として買い物に出かけご本人が選んで買われたり、馴染みのものを職員が買って来られることもある。	ご家族の支援がむつかしいような利用者についても、ご本人のご希望や意向等を聞き取り、馴染みの場所や懐かしい所を訪ねてみるような取り組みをすすめてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲よし同士でおしゃべりしたり、食器の下膳を手伝ったりと、助け合える場面が多々ある。些細な事で口論となったり相性の合わない方もおられ、職員が間に入って緩和している。聞こえ難い利用者様が孤立しないように、職員が隣の席で話題に入れるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後のフォローは、主に施設長・看護師が主に行なっている。職員が面会やお見舞いに行くこともある。月々のメッセージカードは、退居されても翌月も送って、すぐに途切れることの無いようにしている。その後の情報は、施設長から職員へ報告され、全員で把握できるように努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、会話や様子から、思いや希望を把握出来るように努めている。困難な場合は、選択しを増やし、選びやすいように支援している。家族様から利用者様の思いをお聞きする時もある。得た情報は、申し送りノート等を活用し全員で把握している。	
			(外部評価) テレビを見ながら「こんなものを食べたい」「行ってみたい」等と希望される方もあるようだ。又、会話の中からご本人の思いを知ったり、時には、料理の本と一緒に見ながら、希望の献立を選んでいただくようなこともある。ご自分の居室入口の暖簾は、いくつかの中から選んでもらうようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接やアセスメントを十分に行ない、職員全員で把握に努めている。入居後は、利用者様との会話や、家族様から話を聞いて、更に情報の収集に努めている。知り得た情報は、アセスメントシートに追記したり、申し送りして、全員で把握している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々、共に過ごす中で、利用者様が示される態度、表情、言葉等から、状態の把握に努めている。散歩や体操、入浴等は、必ずバイタルサインを参考にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のモニタリングをケアプラン更新時の評価の参考にして いる。居室担当者は、利用者様や家族様と話し合い、また、 状態によっては、かかりつけ医にも相談している。ミーティ ング時や意見ノートを活用して、職員全体でアイデアを出 し合って現状に即したプラン作りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「ご本人の意思を尊重」した計画の作成に努めておられる。 ご家族には、利用者ご本人の日々の様子や思い等を報告し、 支援のご希望をお聞きして計画に採り入れるようにされてい る。計画は、3ヶ月に1回の見直しをされている。</p>	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>介護計画に沿った記録を心掛けている。日誌、日報、申し送 りノートを使い分けて、情報の共有をして、より良い支援、 計画の見直しに活かしている。日誌の記録については、画一 的になりがちなので、改善に努めている。また、家族様や利 用者様との会話も記録し、ケアの質の向上に活かしている。</p>	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>可能な範囲で柔軟な対応に取り組んでいる。(全員での外出 時等は、人員を増員して、安全に努めている。)</p>	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>アロマテラピー等の、地域のボランティアさんの訪問を楽し みにされている。包括支援センターのイベントが近所の集會 所で開催され、利用者様や家族様も参加され、工作を楽しま れた。子供達との交流もあり、今後も是非参加したい。ま た、地域の防災訓練に参加したり、少しずつ地域との繋がりが 広がっている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様全員が居宅医療管理サービスを受けておられ、定期的な(1回/2W)受診や往診により、適切な医療を受けておられる。必要に応じて他の専門医への紹介や情報提供をして頂いている。また、家族様対応で、希望する病院へ受診する利用者様もおられる。	
			(外部評価) 協力医の往診は、週1回あり、利用者は2週間に1回は診てもらおうようになっている。協力医は、24時間いつでも相談できるようにしている。ご家族とかかりつけ医を受診される方もある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日の食事量、バイタルサイン、排尿・排便チェック表で、異状がある場合は看護職員へ報告・相談している。必要があれば、主治医へ連絡し、早急に対応出来る。看護職とは、些細な事柄でも相談出来る体制である。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際には、病院関係者との情報交換に努めている。(主に施設長対応)知り得た情報は、スタッフにも申し送られ、退院後にスムーズに復帰出来るように支援している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 急変時の対応について、確認・同意書を家族様に頂いている。現在は、看取りは行なっておらず、医療行為が常時必要となった場合や、重度化した場合の対応を早めに家族様と話し合い、誤解の無いよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 現在は、事業所では看取り支援は行っていない。利用者・ご家族には、入居契約時にその旨を説明をされている。管理者は、看取り支援を実際に行っている他施設に見学に行かれたが、看とりに対して職員の不安もあり、事業所での支援は行わないことにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応マニュアルを作成して、見やすい場所に置いている。心肺蘇生術は、心肺蘇生訓練用人形を使って、看護職員の指導を受けて、全員で練習している。ミーティング時には、シミュレーションをして、様々な実践力を養う努力をしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に一度の消防、防災訓練を行なっている。消防署職員の協力により、地震体験車に利用者様も体験された。避難訓練は、利用者様に実際に階段を使って外庭へ避難して頂き、消防署職員のアドバイスを受けている。地域の訓練にも招いて頂き、地域との協力体制を今後更に拡げる予定である。 (外部評価) 5月に消防署の方立ち合いのもと、夜間想定で職員一人体制時の避難訓練が行われた。消防署の方からは「近所の方との協力体制が大切」とアドバイスをいただいた。地域の防災訓練には、利用者とともに参加された。今年、スプリンクラーも設置された。地域の「防災地図」も事業所内に貼って、職員が確認されている。管理者とユニットリーダーは、「避難所まで実際に歩いて確認」することを予定されていた。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人的な話し合いは、居室にて行なうようにしている。記録物は、イニシャルを使うなど、プライバシーを損なわない取り組みをしている。命令口調にならないように、職員間で指摘し合っているが、更に努力したい。居室やトイレ等のドアは、必ずノックしている。音の大きさにも、更に注意したい。 (外部評価) 職員が利用者の居室に入室する際には、必ず、ご本人に声をかけ、又、食後に薬を手渡しする際にも、ご本人確認をはっきりとご本人に分かるような言葉で伝えておられた。排泄チェック表にはカバーを付けて、他の方の目に触れないように配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様が自己決定し易いように、選択する機会を増やして働きかけをするように努めたい。また、思いや希望を表し易い働きかけを更に進めたい。(なんでもええ・・・という利用者様が多いので)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 概ね決まったタイムスケジュールで生活されている。利用者様もその流れに慣れておられる。その中でその時々体調や希望に沿えるように努力している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者様はご自分で着たい服を選んで着用されている。難しい方は、職員と一緒に選んでいる方もおられる。乱れがないか、暑くないか、寒くないか・・・の調整は職員と一緒にいる。髭剃りは、声掛けにてご自分でされ、剃り残しを職員と一緒にやっている。女性の利用者様で外出時にお化粧される方もおられる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の能力を活かして、下準備や、下膳・配膳・食器拭き等の家事に参加して頂いている。旬の食材を使ったメニューや、新聞広告を見ながら食べたいメニューをお聞きしたりして、職員と一緒に楽しまれている。 (外部評価) 事業所の食事は、週3回は、業者で決まったメニューの食材が届くようになってきている。その他の日は、職員がそのメニュー表を参考にして、利用者と一緒に買い物に出かけ調理されている。ゴーヤやきゅうり等、事業所でできた野菜が食卓に上ることも多いようだ。毎週日曜日は、利用者個々に好みをお聞きしてメニューを決めておられ、利用者は、とても楽しみにされている。調査訪問時、ほとんどの利用者がご自分のお膳を下げておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 週3回の配食サービスを利用して栄養のバランスに考慮している。主治医からのカロリーや水分の摂取制限、カリウム値の上昇に伴う生の野菜や果物の摂取制限を守り、調整をしている。アレルギーのある方には代替品をお出しし、食材の大きさは、個人に合わせた大きさにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアを声掛けして促しているが、徹底できていない。(特に昼食後)職員と一緒に歯磨きしたりして、今後も習慣となるように努めたい。1回/1Wの義歯洗浄は、習慣となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ケアプランに取り入れて支援している方もおられるが、概ね自力で排泄されている。排泄チェック表を活用して、声掛けをしているが、タイミングや声の掛け方は、利用者様に合わせた支援の工夫が必要である。紙パンツから布パンツへと改善された方もおられるので、今後も努力したい。	
			(外部評価) 現在、ほとんどの利用者は、日中はトイレで排泄されており、ご自分で行かれる方や職員がそっと声かけして、トイレにお誘いする方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日、ヨーグルトや牛乳を召し上がっているが、薬の作用や、水分制限、体質等により便秘がちである。散歩や体操をして運動をして、予防に取り組んでいる。利用者様によっては、主治医から下剤を頓服で処方して頂いている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2班に分かれて、曜日や時間帯を決めて支援している。体調により、シャワー浴にしたり、次の日に入って頂いたりしている。希望により、いつもシャワー浴の方もおられる。湯の温度やシャワー強さは、利用者様に聞いて調節している。	
			(外部評価) 週3回は入浴できるように支援されている。日中で、ご希望の時間に入浴できるように支援されている。ご自分の好みのシャンプーを準備されている方もあった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、食事やおやつ、入浴等の時間以外は、ご自分の状況に応じて、居室で休息したり、レクリエーションに参加したり、思い思いに過ごされている。就寝時間は、ご自分のタイミングで行ない、夜間は、時間を決めて巡視を行ない、安心して眠って頂けるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの処方箋を読み込み、理解に努めている。体調に変化等を把握して、主治医や看護職員に報告、連絡、相談し、迅速で適切な対応に努めている。職員は全員で情報の共有に取り組んでいる。「服薬のミス無くす」を目標に掲げて、2重、3重のチェックをしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物干しや畳み・調理の下ごしらえ・食器拭き等、日々の家事を一緒にすることで、役割を担って頂き、満足感を味わって頂いている。また、カラオケなどのレクや、アロマテラピー等のボランティアの訪問や、パンの訪問販売を楽しみに待たれる方もおられる。居室に花を飾り、毎日水を替える方もおられる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 1日1回は、近隣への散歩に出掛けるように支援している。また、ホーム全体やユニット毎で、車で遠出し、釣堀や果物狩、外食を楽しむ取り組みをしている。家族様との外出は自由に出掛けて頂いている。食材の買出しと一緒にいく場合もあるが、利用者様一人ひとりの希望に添えていない場合もある。 (外部評価) ほとんど毎日、午前中は近隣の公園まで等、散歩されている。車いすを利用されている方も「外気に触れる機会を作る」ことに努めておられ、一緒に散歩に出かけておられる。毎月、外出計画を立て、お花見、イチゴ狩り等、季節を感じることができるような外出を楽しまれている。皆で椿祭りに出かけた際には「懐かしい」と喜ばれる利用者もあったようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 概ねホームで管理している。職員と一緒に食材の買出しに行かれて、好みの雑誌やドリンク割を買ったり、皆さんのおやつを選んだりされている。訪問パン屋さんが来られた時には、ご自分で見て、好みのパンを買われる。お小遣い程度のお金を所持している方もおられる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご自分で携帯電話を持たれ、自由に連絡を取っている方もおられる。施設の電話使用を希望される方は、いつでも電話できるようにしているが、たまにしか希望が出ない。毎月のメッセージカードに利用者様が、一言書き加えたり、広告の裏に要るものを書いて家族様に渡している方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用の空間には、季節の花を飾ったり、雛人形や五月人形を飾って季節感を出すように取り組んでいる。今年は、トマトやゴーヤも植えている。テレビの音や光の調節は職員が小まめに行なっている。エアコンやヒーターの調節、湿度の調整も心掛けている。換気に気をつけて、空気がこもらない様に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関先には、大きなプランターからゴーヤがつるを伸ばし、たくさん実をつけていた。利用者が水やり等をされている。居間には七夕飾りがあり、テーブルには庭の花を生けておられた。居間は、道路沿いであるがベアガラスで車の往来の音も気にならなかった。季節に応じて加湿器も使用されている。調査訪問時には、ボランティアのアロマセラピーの先生が来られており、利用者個々にフットマッサージをされていた。利用者はたいへん喜ばれていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファでテレビを観たり、テーブル席で、談笑する場面も多く、調理の下ごしらえやレクリエーションを楽しんでおられる。雑誌や新聞を読む方もおられ、思い思いに過ごされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族様が届けて下さる花を楽しみに活けている方がおられる。また、ボードを自分が作った折り紙や、塗り絵、写真等で自由に飾りつけされている方もおられる。居室の広さに関りがあるので、全て思いどおりに持ち込みはできないが、位牌や信仰されているお経の本を置いて、時々お経を唱えている方もおられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各居室のボードには、ボランティアで来てくださっているフラワーアレンジメントで作ったお花が飾られていた。ご家族の写真や職員の結婚式の写真を大切に飾っておられる方もあった。ご自宅から椅子を持って来られている方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>必要な箇所には手摺を設置して、安全に自立した生活を送れるように環境設備されている。職員は見守りをして、必要な支援を行なっている。また、トイレの表示などで、混乱を防げるように取り組んでいる。できること、できないことシートを活用して、利用者様の把握に努めている。</p>	